

【公報種別】特許法第 17 条の 2 の規定による補正の掲載

【部門区分】第 1 部門第 1 区分

【発行日】平成 18 年 12 月 28 日 (2006.12.28)

【公開番号】特開 2001-103902(P2001-103902A)

【公開日】平成 13 年 4 月 17 日 (2001.4.17)

【出願番号】特願 平 11-288651

【国際特許分類】

A 2 1 B 3/15 (2006.01)

A 2 3 G 3/02 (2006.01)

A 2 3 G 3/50 (2006.01)

【F I】

A 2 1 B 3/15

A 2 3 G 3/02

A 2 3 G 3/00 1 0 2

【手続補正書】

【提出日】平成 18 年 10 月 10 日 (2006.10.10)

【手続補正 1】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】特許請求の範囲

【補正方法】変更

【補正の内容】

【特許請求の範囲】

【請求項 1】 鉄または鋼からなる焼き板基材と、この表面に電気メッキにより直接被着形成されて厚さ 0 . 0 2 mm 以上である硬質クロムメッキ層とから成ることを特徴とする菓子焼成用焼き板。

【請求項 2】 鉄または鋼からなる前記焼き板基材と前記硬質クロムメッキ層との間にニッケルまたは銅の中間層を介在させて成ることを特徴とする請求項 1 記載の菓子焼成用焼き板。

【手続補正 2】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0 0 2 6

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0 0 2 6】 なお、図 3 であんの上に焼成された生地 4 が重ねられて、どら焼きなどとはつくられている。

【手続補正 3】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0 0 3 5

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0 0 3 5】 本発明に係るクロムメッキ層 2 2 は鉄又は鋼の焼き板基材 2 1 上に直接形成することもできるし、又は、N i 又は C u の中間層 2 3 を介在させても構成できる。いずれによって被着形成しても、厚さ 0 . 0 0 5 ~ 0 . 0 1 0 mm 程度の一般の硬質クロムメッキに較べてきわめて厚く構成する。